

令和元年度を振り返って

倉敷教育センター 館長 有森 真理

3月を迎え、ライフパークでは、館外の河津桜が今を盛りに咲き誇り、館内には華やかなひな人形がいくつも飾られています。新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、外出を控えられ方も多いのか、見に来られる方が少ないように思います。春の訪れを例年のようにワクワクして迎えることができないことが寂しく、1日も早い終息を願うばかりです。

今年度、倉敷教育センターは「つなぐ」をキャッチフレーズとして、4つの機能「研修事業」「適応指導」「教育相談」「教育情報の収集と提供」の充実と発展を目指し取り組んで参りました。

「研修事業」では、教育センターが実施する校外での研修と校内での日々の実践を「つなぐ」よう意識しました。研修に来られた先生方と直接話す機会は、研修講座の担当をしていた頃と比較すると減ってしまいましたが、どのような「学び」をもって学校に帰られるのか気になり、研修後のアンケートを読ませていただいています。前向きな感想が多く、充実感をもって研修を終えられていることを感じています。

経験年数別研修の中では、自分の実践を持ち寄ったり、授業実践の動画を見合ったり、個々が課題とするテーマについて研究した成果を発表したりする研修を設定しています。これらの研修について「他の受講者の視点は、自分にはない視点で、とてもよい刺激を受けた。」「同じ経験年数なのに、日々を大切に実践を積み重ねて力をつけている仲間においていかれないよう、自分ももっと勉強したいと思った。」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、自分の知識のなさを感じた。他の受講者の取組を参考に自分も挑戦してみようと思った。」と、自分の実践を見直すアンケートが多くありました。

世代交代が激しいこの時期、若い先生方にとっては、一人で学び続けることも大切ですが、教育センターでの研修を通して仲間とともに学ぶ機会をもつことや時代の要請に応じた学び直しをすることも大切だと感じました。

中堅教諭資質向上研修の受講アンケートに「今日の研修で、自分の課題が見つかりました。そして、学校に帰ってやってみたいことも見つかりました。」と書かれたものを見つけたときには、自分たちが大切している「つなぐ」が形になっていることを実感することができました。

「適応指導」では、倉敷ふれあい教室に通室してくる児童生徒が、活動を通して「できた。」と感じる経験を「つなぐ」ことを大切にしました。

これまでも、一年間の諸活動や合同行事などを通して、小集団の中で教室の仲間や教育指導員から認められる経験を重ねることを大切にしていってまいりましたが、これらの活動に加えて、今年度10月からは、「ふれあいクラスマッチ」をスタートさせました。毎月共通のテーマで教室対抗あるいは、個人対抗で記録や作品を競い合う中で、教室内の連帯感・所属感が高まり、教室間の交流も深まっております。

「教育相談」では、必要に応じて関係機関に「つなぐ」ことを意識し、教育相談員や臨床心理士による相談、「とらいあんぐる」「かけはし」を通しての保護者支援の充実を目指しました。

「教育情報の収集と提供」では、研究集録、教育雑誌、書籍、展示教科書を整備し、今後も、これまでの教育とこれからの教育を「つなぐ」役割を果たしたいと思っております。

最後になりましたが、1年間、教育センターの諸事業に温かいご協力をいただき、心から感謝申し上げます。そして、今後とも変わらぬご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

倉敷教育センター
マスコット「サミー」

令和元年度 ☆ 全講座が終了しました

中堅教諭資質向上研修 最終回

「特定課題研究発表会」



特定課題研究発表会では、中堅研受講者がそれぞれのテーマで1年間研究実践を重ねた成果を発表しました。発表内容は、教科指導、学級経営、特別支援教育、道徳教育、生徒指導、家庭学習等と多岐にわたっています。今年度は4日間の開催の中で、116名の受講者が発表し、互いの発表を聴き合い、真剣に学び合う様子が各会場で見られました。また、3年目研修の受講者は、自らの課題や研究に資するようにと発表会に参加し、熱心に質問をしていました。校長先生や来年度受講予定の先生も聴講され、活気あふれる発表会となりました。中堅研受講者は、この研修をステップアップの機会とし、今後より一層の自己研さんと、ミドルリーダーとしての飛躍が期待されています。

【中堅研受講者のアンケートから】

どの発表からも、子どもたちにこんな力をつけさせたいという先生の思いを感じ、刺激を受けました。発表を聞いていると、「もっと知りたい。」「試してみたい。」という意欲がわいてきました。目の前にいる子どもたちのために日々学び続ける教師でありたいと強く思いました。

【参加された校長先生から】

中堅教諭にとって、同じように経験を積んでいる教員の発表を聞くことは、大変刺激になり、自分を高めたり振り返ったりする絶好の機会になっています。また、3年目の後輩たちが、発表を本気で聴いて、先輩の実践を吸収しようとしている姿を頼もしく感じました。

3年目研修 最終回

実践発表「学級経営・教科指導」

3年目研修の最終回は、各自がテーマを決めて取り組んできた教科指導または学級経営に関する課題研究の実践発表及び協議でした。

【受講者のアンケートから】

- ・ 今までの自分の取組をまとめることで、その良さや改善点に気付くことにつながりました。より良い指導を目指して研修に励んでいきたいです。
- ・ 同じ志をもつ仲間の取組を知ることで、自分には無い考えを知ったり、共感できたりする部分が多くあり、より良い取組をしていきたいという思いをもつことができました。自分に足りない力や強みを見つけながら学んでいきたいです。
- ・ それぞれの研究テーマは違っても、同期が熱心に研究・発表していることに励まされました。仕事を一つずつ丁寧に深めていくことが大切だと思いました。



令和元年度受講者数

1 初任者研修(新規採用学校栄養職員を含む)	2,126名	15 いじめ問題研修	168名
2 2年目研修	466名	16 常勤講師研修(新任)	155名
3 3年目研修	415名	17 常勤講師研修(2年目・3年目)	156名
4 中堅教諭資質向上研修	1,146名	18 幼稚園助教諭研修	32名
5 16年目研修	151名	19 幼児教育に関する研修会	394名
6 新任教務主任研修	46名	20 特別支援教育に関する研修会	470名
7 特別支援教育新任担当教員研修	247名	21 生徒指導に関する講演会	116名
8 特別支援教育コーディネーター研修	210名	22 学校組織マネジメント研修	41名
9 通級指導教室担当教員研修	58名	23 国際教育研修会	107名
10 生活支援員研修	43名	24 小学校授業研修会	110名
11 発達障がい研修	400名	25 中学校授業研修会	28名
12 特別支援学級スキルアップ研修	140名	26 学校・家庭・地域の連携促進事業関係者等研修会	37名
13 発達検査研修	153名	27 学校事務職員研修会	110名
14 学校カウンセリング研修	27名	28 学校事務職員スキルアップ研修	76名

初任者研修最終回&オープン講座 記念講演

「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインと評価 ～「PISA2018の結果」と「GIGA スクール構想」を踏まえて～

文部科学省 国立教育政策研究所
教育課程研究センター 研究開発部

学力調査官・教育課程調査官 小倉 恭彦 先生

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善について、全国各地で指導されている小倉先生に、今、教員に求められていることについてお話いただきました。



【研修のキーワード】

主体的・対話的で深い学び, 資質・能力, 見方・考え方, 評価, パフォーマンス課題, 課題を見つける力, 情報活用能力, 読解力, オーセンティックな学習, ヒドゥンカリキュラム, 読解力, 認知負荷, 授業改善, GIGA スクール構想



<受講者の感想より>

- 学んだことを自分のこととして得るためには、自ら problem を見いだして解決する活動でないといけないことが分かりました。何の仕事でも学び続けなければなりません、教育はよりそうだと実感します。刻一刻と状況が変わり、時代に合った教育をする必要があります。「子どものために」という言葉を胸に、努力しようという気持ちになりました。
- 講演の中で、「なぜだろう、もっと知りたい!」と思えるような課題を出していただきました。この気持ちを毎時間の授業で生徒に感じさせることができれば、「深い学び」になっていくのだろうと思います。教材を知ること、生徒を知ること、学ぶための様々な手段を知ることが大切なのだと思えました。講演の最後に、AI には課題設定はできないと言われていました。人間である私たち教師が生徒としっかり向き合い、共に成長していけたらと思えました。
- 「学習がその場限りになっていないか?長い目で見て、生徒が使うことができる力がついていないか?」と言われたことにドキッとしました。その時間や単元のゴールは見えていても、そのずっと先はどう役立っていくのか考えるべきであったと反省しました。講義を受けて、「評価」について改めるべきことも分かりました。「評価」は絶対に欠かせないことなので、もっと学びたいと思えました。
- 自分の評価の仕方を今一度見直さなければならないと思えました。評価とは、教師が指導の改善を図るため、そして、子ども自身が自らの学習を振り返って次の学びに向かうことができるようになるためのものであると改めて学びました。テストでははかれない子どもの姿からも評価を行っていきたいと思えます。
- どんどん進化し、対応していかなくてはならないことも増えています。その中でも、課題の持ち方や身に付けさせたい力など大幅に変わらないものもあるのだと分かりました。「新しいことが始まる!」と焦ってしまう部分もありましたが、今日のお話を聞いて、一つひとつがんばるしかないと思います。児童と同じように、主体的・対話的で深い学びが教師にも必要であると学びました。

倉敷ふれあい教室めぐり

☆☆ 倉敷教室 ☆☆

☆ 恵まれた教育環境の中で
のびのびと・・・

倉敷ふれあい教室倉敷教室は、くらしきシティプラザ西ビルの8階にあります。窓からは倉敷市内が一望できます。倉敷駅に隣接しており、交通の便のととても良い場所です。

周辺には、倉敷みらい公園、美観地区、倉敷美術館、自然史博物館、北児童センターなど多くの文化施設や教育施設があり、恵まれた環境の中で様々な活動に取り組んでいます。

「なかよし活動」では折紙や手芸などの創作活動、書道や英語（NET）などの学習活動、その他にもスポーツや茶道、映画鑑賞なども行っています。地域に出かける活動としては、倉敷幼稚園での交流会、



[書道]

倉敷公民館での調理実習、倉敷中央図書館での読書、阿智神社の年中行事への参加などがあります。また、ボランティア活動として地域のゴミ拾いも行っています。「スタディ」の時間は机に向かい、それぞれ自分に合った学習内容に一生懸命取り組んでいます。

倉敷教室の今年度の目標である「つなぐ」をキーワードに、一人ひとり苦手なことにも勇気をもってチャレンジし、次の活動へつなげていけるように頑張っています。「やってみたらできた」という達成感や「やればできるんだ」という自信がもてるよう、日々いろいろな活動に取り組んでいます。



[ボランティア活動]

おっ!? そうだ!

教育センターの **教科書展示室** に



寄ってみよう!

研究集録を読みたい!

教科書を比べてみたい!

次の物を展示しています。

- ・ 各発行者の教科用図書
- ・ 小、中、特別支援学校の研究集録
- ・ 研究団体の研究集録（岡山県や他市の教育センター、大学等）
- ・ 教育に関する雑誌・図書
（「教育時報」「実践障害児教育」「学校教育相談」等）
- ・ 研修講座での実践発表、作成した学習指導案等



教育センター
事務室の隣だよ!



☆ **1か月まで** 貸し出すことができます。（1冊しかない教科用図書は閲覧のみとなります。また、貸出しができない期間もあります。）

☆ 開館時間は、**月曜日～土曜日**の**9時から17時15分**です。（日曜日と祝日は閉館日です。）

☆ 月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）はライフパークの休館日ですが、教育センターは開いています。入口の御案内をしますのて、来られる方は事前に御連絡ください。

倉敷教育センター ☎ 086-454-0400

☆ **本（ほしぼん）**を知っていますか？

特別支援学級等の指導の参考にも!

特別支援学校では、小（中・高等）学校と同じ教科書のほか、子どもの障がいの状態に合わせて作成された教科書などを使っています。文部科学省では知的障害者用に、通称「☆本（ほしぼん）」と呼ばれる教科書を作成しています。小学部用には「こくご☆☆☆☆」「さんすう☆☆☆☆」「おんがく☆☆☆☆」、中学部用には「国語☆☆☆☆」「数学☆☆☆☆」「音楽☆☆☆☆」があります。倉敷教育センターで貸し出しが可能です!

